科目名		担当教員	
臨床心理学概論Ⅱ		清水　めぐみ	
科目コード	単位数	履修方法	配当年次
FF4555	1	R	3年以上
履修登録条件	レポート提出条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方のみが履修登録可能です。		
生成AI利用レベル	レポート　：　C	試験　：　C	

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※この科目は、レポート提出にあたって条件がありますので、ご注意ください。
※この科目は、専門性の高い科目のため福祉心理学科の方のみ履修登録できます。

科目の概要

■科目の内容

心理臨床において培われてきた代表的な理論の成り立ちと特徴を理解することが、心理臨床の実際や心理療法（心理学的支援法）や心理的アセスメントといった臨床心理学に基づく実践における必須の基盤となります。臨床心理学概論Ⅱでは、臨床心理学概論Ⅰで概観した臨床心理学の大枠を踏まえたうえで、代表的な理論をより詳細に学び、各理論の特徴を、その成立の経緯や他の理論との比較から把握していきます。

■到達目標

１）臨床心理学の成り立ちをその歴史を踏まえて説明できる。
２）臨床心理学の代表的な理論のいくつかについて、その特徴を他の理論との比較しながら説明できる。
３）心理臨床の実践の具体例において、理論を基盤とした対象者についての理解（仮説）を記述できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人間理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋科目修了試験50%

■教科書・参考図書

【教科書】

野島一彦・繁桝算男　監修『公認心理師の基礎と実践３臨床心理学概論第２版』遠見書房、2023年

【参考図書】

妙木浩之『初回面接入門』岩崎学術出版社、2010年
河合俊雄編著『ユング派心理療法』ミネルヴァ書房、2013年
伊藤絵美『認知療法・認知行動療法カウンセリング』星和書店、2005年
岡昌之ら編著『心理療法交差点2』新曜社、2016年
田中千穂子『プレイセラピーへの手引き』日本評論社、2011年

レポート学習

■在宅学習８のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	臨床心理学の成り立ち	日本および世界の臨床心理学の歴史を概観し、臨床心理学とはどのようなものかを把握する。	19 世紀、世界大戦、心理学的支援法、心理アセスメント
2	精神分析	今日に至る精神分析の流れと意義を概観する。	無意識、自由連想
3	分析心理学	精神分析から派生したユングの考え方とその今日における展開を概観する。	自己関係、物語、イメージ
4	行動論・認知論	歴史を概観し、代表的な理論と技法を概観する。	行動療法、認知療法
5	ヒューマニスティック・アプローチ	人間性心理学の歴史と人間観とそれに基づく心理療法を概観する。	クライエント中心療法、フォーカシング
6	グループ、コミュニティ	グループやコミュニティへのアプローチを概観する。	集団精神療法、スクールカウンセラー
7	非言語的アプローチ	遊戯療法、箱庭療法などの非言語的アプローチを概観する。	象徴、描画
8	その他のアプローチ	システミック・アプローチ、ナラティヴ・アプローチ、統合的アプローチおよび身体的アプローチを概観する。	システム、社会構成主義、折衷

■レポート課題

※レポート提出条件

⑴ 「心理学概論 A」、「心理学概論 B」、「福祉心理学」、「発達心理学」、「臨床心理学概論Ⅰ」、「心理的アセスメントⅠ」、「心理学研究法 A」、計 7 科目の単位修得

⑵ 卒業要件単位 90 単位以上修得していること

1 単位め	まず、臨床心理学の歴史を、心理療法（心理学的支援法）の流れに焦点を当てて概説してください。その上で、「学校の先生が怖い」と訴えて登校を渋る小学校 2 年生女児 A さんの心のありようを「自己関係」の点から説明し、この A さんと比較して教科書 170～177 ページに記載されている事例の特徴を「自己関係」「融合」「主体」の語を用いて説明してください。また、A さんの心理療法（心理学的支援法）について、①精神分析、②行動論・認知論の立場からそれぞれの目標と方法を述べてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

科目を通じてさまざまな臨床心理学の基礎理論を学んでいきますが、いわゆる 3 大心理療法をその成立と展開の歴史にそって、それぞれの特徴や異同をしっかり把握しましょう。心理学的支援法（心理療法）では自分を振り返って見ることが前提となりますが、分析心理学的アプローチで説明されている「自己関係」の点からだれかが「怖い」という訴えについて、どのように考えられるのかを検討しましょう。その際に、教科書 170～177 ページに掲載されている事例の「自己関係」や「主体」のあり方と比較することで「怖い」という訴えの背後にある在りようの特徴が把握しやすくなるでしょう。最後に、「怖い」という訴えにもとづいて、A さんの現状をアセスメントして、A さん

の心理療法の開始時点での目標と方法を、精神分析の理論に基づいて、さらに行動論・認知論の立場に拠って、それぞれに記述しましょう。

■レポート　評価基準

評価は、⑴課題に提示されている点に沿ってレポートが作成されていること、⑵複数の文献を参照して自分の見解を述べていること、⑶適切な書式で、箇条書きではなく文章で記してあること、の点から行います。

⑴引用の明示がなく、剽窃や盗用を行っているとみなされるもの、⑵教科書の抜粋を行っているだけで他の文献を参照していないもの、は評価の対象とせず再提出を求めます。

科目修了試験

■評価基準

出題されているポイントをもれなく記述しているか、それに加えて自分の見解を述べているか、の２点から評価します。誤字脱字や不適切な記述は減点の対象となります。